

第70回市民ふれあいトーク 【一緒に考えるこのまちの地域力】

日時 平成29年6月1日 18:30~20:00

場所 倉敷西公民館

要約版

《市長》

皆さんこんばんは。今日は倉敷西公民館での市民ふれあいトークに、夕方それぞれお忙しいお時間に参加していただき、まことにありがとうございます。今日は70回目の市民ふれあいトークとなります。1年間の中で市議会があります月が3、6、9、12くらいの月で、それ以外の月に1回くらいこのような形で、各公民館で、また、テーマごとに場所を設けて開催しております。皆さんたくさん参加していただきましてありがとうございます。「一緒に考えるこのまちの地域力」としまして、最初私が15分くらい市政の最近の状況などをご説明申し上げまして、その後、地域のこと、また市全体のこと、話題になっていることなどについて皆さんから質問いただいたりご意見いただいたり、皆さんがどういうことに興味を持たれているかとかおうかがいしまして、今後の市政を進めていく上での参考とさせていただきたいというのが、この市民ふれあいトークの大きなテーマでございます。

最初のお話といたしまして、最近の倉敷市の大きな出来事で何があったかというのをいくつか、市民広聴課がパネルを準備してくれましたので。あと、お手元に配布物が、広報の6月号とコットンプロジェクト。その広報の表紙の右上の部分が、私が松野文部科学大臣から日本遺産の認定証をいただいている写真でございます。倉敷市が日本遺産に認定されましたということが書いてございます。何が認定されたかということがそこから4ページほどに書いてあります。後でゆっくり読んでいただけたらと思うんですが、かいつまんで申し上げます。4月の28日に倉敷市のいろいろな文化財が日本遺産に認定されました。皆さん、世界遺産という単語を聞かれたことがあると思います。世界遺産というのはなかなか簡単にはなれないわけでございますが、倉敷市といたしましてはまずは日本遺産から獲得しまして、倉敷市のことを全国にPRして、それからまた段階を経てできれば世界遺産とかにもチャレンジしたいなと思っているんですが、まずは日本遺産に手を挙げてみようということでこの度、認定されたわけです。文化庁が文部科学省と一緒にいるものですが、この目的というのは、日本各地の方々にこの倉敷市の歴史、文化のストーリー、このストーリーという言い方が文化庁の言い方なんですが、そのストーリーが全国の方々に知っていただくべきものだということで認定されたということでございます。その認定されたのが「一輪の綿花から始まる倉敷物語～和と洋が織りなす繊維のまち～」としまして、文化庁が何を重要だと言ったかということ、倉敷の周辺は400年ほど前までは多くのところが海でございました。そしてその中で、近世から干拓がどんどん進みまして、そこは人々が暮らしをする場所を広げ、干拓になったということは地面に塩分が多いわけでございます。なかなか最初からお米が取れにくい。で、塩分に強い作物というのは綿花とイ草でございます。それゆえ倉敷市内のさまざまな場所で綿花が、たとえば玉島でいえば備中綿、それから庄や茶屋町ではイ草が、それから児島では塩田、若しくは綿花が栽培されました。そしてそのいろいろなものをこの倉敷川のところで今、蔵がたくさんございすけれど、そこで多くの商いをされる皆さんが綿花を取引されまして、それがもとになってこの倉敷全体の経済が発展していったということが大きな素地としてあると思います。

それによって例えば大原さんの大原美術館なども綿花の取引によるさまざまな経済活動の中で建てられ、そして例えば児島ではその繊維産業が、もともとは足袋や真田紐、学生服、セーラー服、そして作業服、そして今やジーンズと。ということで、ずっと繊維産業の歴史をもとに倉敷のまちが形成されてきたと、そしてそれが今に残っているということが、日本の方がぜひ知るべき内容だということで文化庁に認定されました。

近くのところで言いますと、倉敷市の伝統的美観地区、それから大原さんのところや大橋家住宅、井上家住宅、楠戸家住宅、大原美術館、中国銀行の本町出張所、今は変わりましたが。有隣荘、倉敷館、考古館、そして近世になってアイビスクエア、倉紡記念館、そして倉敷の屏風祭をはじめとするお祭りや民芸品、そしてこの近くでは高梁川東西用水の酒津の取配水の施設、あそこもなぜならばこの大きな綿花の産業、そして倉敷市の田畑を支えたということでここも重要な構成文化財となりました。ご存じのように昨年7月に国の重要文化財に、東西用水のところの施設はなりまして、岡山県内でもこういう建造物としてなったのは初めてでございます。近世の建造物で、地域の中における水田また畑の設備を大きく司っているということで、文化庁の方からこちらにも認定になったということでございます。イ草の方でいえば茶屋町の磯崎眠亀さんの記念館がなりました。また玉島の町並み保存地区ですとか下津井の町並み保存地区、それから取引を多くされていた、むかし下津井回船問屋などなど、繊維産業やその時代の取引にかかわるところがこの構成文化財として認定をされました。

さてこれに認定されるとどうなるかということでございますけれど、日本遺産のマークがこの表紙にも大きく、赤い日の丸の下に黒い線が入っていて、ジャパンヘリテージ（JAPAN HERITAGE）と書いてあります。これは日本遺産の英語訳。ちなみに世界遺産はワールドヘリテージというそうです。で、このマークをいろいろなところで使って、日本国内、それから政府の大きな目標としては2020年のオリンピックがございませう。その時に日本に海外からの方が来られた時に、みんなが京都とか奈良とか東京ばかりに行ってしまうないように、この日本遺産の全国のところを巡ってもらいたいということで大きくPRをされるそうでございます。ですので、2020年に向けまして、より多くの海外の方がこの倉敷市にも来られるようになったんだというふうに思っております。

そのちょっと前、昨年の大きなことが何だったかと言いますと、左右に写真を出してみました。右側が、老松小学校にサミットの教育相会談の時に大臣の皆さんが来られた時の写真でございます。当西公民館の学区ということで、老松小学校、そして中学校は西中学校ということで、こちらの左側の方が、西中学校に訪問団の皆さんが来られたところです。去年の5月の中頃にサミットがございまして、地域の皆さんにはいろんな面でご協力をいただいたと思いますけれど、警備の関係で近い小学校と中学校にしか行ってもらえなかったもので、一番最近できた小学校で近いところで老松小学校、市内で一番歴史のある中学校で木造の校舎ということで西中学校に来てもらいました。

それで西中学校のときは、英語の授業とか書道の授業とかクラブ活動の吹奏楽とかそれから剣道とかを見てもらったりしたわけでございます。剣道でのエピソードですが、剣道を見られましてコメントをされたのが「日本の子どもたちは今でも子どもの頃からサムライの練習をしているんですね」と（笑）。私もなんとコメントしたらいいか分からなかったんですが、「刀は使ってないんです。これは精神を修養するものです」ということを言いました。

それから老松小学校のときは、この小学校は最新の小学校で、例えば自然の空調も使っておりますとか、ちょうどお昼に来られましたので給食を食べていただきました。各国の文部大臣、G7ですので日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダ、それからEU、OECD、ユネスコの代表の方が来られまして、初めて日本の小学校、中学校に来られまして、ここしか見ないわけです。つまり我々の小学校、中学校が日本の小中学校の代表ということで、授業はもとより普段の生活を見てもらおうということで、ちょうど昼だったので給食から入ってもらいました。給食の先生たちも頑張ってくれて、地域の産品ということで、鱈や木の芽和え、ワカメと白玉麩だったかな、のお味噌汁、それからご飯に玄米が入っているもの、それから牛乳、桃のゼリーが出ておまして、子どもたちが「いつもより豪華な給食だ」と言っておまして（笑）。他の大臣は、諸外国では大体、サンドイッチを、家からパンにハムを挟んでレタスを挟んで持って行くだけとかいうことらしくて、非常に日本は栄養バランスが取れているということを言っておられました。それからお掃除を、給食が終わった後、みんなでするんですけど、それを見ていただいたら、我々にとっては当たり前ですけど「日本は自分で子どもたちがお掃除をするんですね、海外ではそうじゃないです」とか、また地域の皆さんがいろいろ、けん玉とかお手玉とか、地域のことも教えていただける授業とかも見学していただきました。

もう一つ西中学校ですけど、木造の校舎で倉敷市で一番歴史があるということで、実はこの校舎につきまして、文科省の方から、「サミットの大臣会合を行った場所でもあるので、是非この木造校舎を保存してこれからも使ってもらいたい」ということでお話がありまして、この度、優先して補助改修の補助金が付きました。市の方も、この木造でやっていくにはかなり予算もかかるので、悩んでおりましたところ、その状況を言ったら、文科省としてもサミットを行った学校なんで、レガシーというんですかね、その記念になる物で、これを残していきたいということで、木造で改築をする予算が通りましたので、今後これを何年かかかりますけれど、やっていくような状況となっております。

最後にもう一つ、帰りに見ていただいたらと思うんですが、入口のところに写真パネルを展示しています。倉敷市の姉妹都市、ニュージーランドのクライストチャーチでございます。日本国とニュージーランド国の中では一番長い姉妹都市関係でございまして、先日ニュージーランドの首相が日本に来られまして、安倍総理と会談されました。ニュージーランドの首相ですけども名前がイングリッシュさん（笑）。彼が来られるという話があって、実は官邸の方から連絡がありまして「倉敷市はニュージーランド国との最初の姉妹都市なので、市長さんがニュージーランドの首相の歓迎夕食会に出てください」ということで、その夕食会が全体で60人くらいだったんですが、首相官邸でありました。それで写真には、安倍さんがイングリッシュ首相を連れてきて「こちらが倉敷市の伊東市長です」というふうで紹介されまして、私がちょっと英語でペラペラっと（笑）「最初の姉妹都市です」と、それから「地震の時には倉敷からも救援隊を出して皆さんのお手伝いをしました」ということとか、そういう話をしました。それからオリンピックについて「倉敷市はニュージーランドのホストタウンとって、応援をするところになりました」ということを言いましたら、イングリッシュ首相が「地震の時も皆さんに助けていただいて、倉敷市民の皆さんの支援に心から感謝してますということを皆さんにお伝えください」ということを言われましたので、今度6月の市議会の時に議会で最初に言おうかと思っていたんですが、今日先にちょっと言ってしまいました。

さて、この地域では、たしか前回、みらい公園がオープンするよりちょっと前だったでしょうか、お伺いしましてお話をさせていただきました。みらい公園もオープンしまして、多くの方にお越しいただいております。それから一つ大きな懸案事項として鉄道高架のことがなかなか進んでいないという状況がありまして、岡山県にいろいろお願いをしたり、また金額を少しでも下げる方法を一緒に検討したりということで、市としては必ずやってもらわないといけない事業だということでお話をしております。

それではこのくらいにして、皆さんの方から、今の私の話、また最近の話題とか、それから市の方向性とかで、こういうことを思っているとか、関心があるということを書いていただける方がいらっしゃればと思っております。よろしくお願いたします。

《参加者 A さん》

老松町から来ました A と申します。今日は始めて 70 回目で、市長さんが 9 年ですね。第 1 回目のとき私、出させてもらったんですけど、今日、受付の人が「A さん、54 回目で一番多いです」と言われまして、びっくりしたんです。一番最初、市長さんにお会いしたとき、この市民ふれあいトークに出たときですが「まあなんと、今までと違ってフレッシュな市長さんだなあ」という（市長：今は違うような（笑））いやいや、そうじゃないです（笑）。今日 70 回目に出させてもらって、なんか隔世の感がしますね。国内にも海外にもいろいろ発信されると言われましたね。そんなことがこの田舎の倉敷でできるんじゃないかと思ってたんですけど、今日来てインターナショナルないろんなことを教えてもらったんですけど、ものすごく感激しました。僕はよく県外の友達に会うんですが、倉敷にはこういう市長さんがおるんじゃないかといつも自慢するんですが、今日ものすごく誇りに思いました。

今日はお願いしたいことを一つだけ。倉敷中央図書館を私もよく利用するんですが、冬とか夏は冷暖房が入って、今は気候がいいから窓を開けていて換気がいいんですけど、冷暖房を効かせたときには換気が悪くなるんですね。あそこは子どもたちもよく勉強に来ますし、子どものところはさほどでもないですが、大人のところで、特に 1 階が非常に換気が悪いんですよ。他の市民の方もよく利用されると思うんですね、それで感じておられると思うんです。市長の耳にはたぶん届いてないんじゃないかと思って。非常に感激した後でこういうことを言って申し訳ないですけど、取り上げてもらえば改良してもらえないかと。図書館の職員の方は非常に努力されてると思います。しょっちゅう窓を開けたりしてね。しかし窓を閉めたとき、ちょっと換気が悪いかなという気がしました。県外の人結構利用してるんですよ。あそこの駐車場に県外の人いっぱい車を止めてるんですよ。結構図書館にも入るんで、そういう人がどういうふうを感じるのかなと心配になりました。今日敢えて言わせていただきました。よろしくお願いたします。

《市長》

ありがとうございました。換気の話は職員にもよく言いまして、定期的な換気とか、よく気を付けるようにしたいと思います。A さん、多くの方が来られていると言われましたが、実は倉敷市が高梁川の流域で今、連携をしております。で、今年は倉敷市が 3 市合併 50 年でございます。昭和 42 年の 2 月 1 日に倉敷、児島、玉島が合併しましてから今年の 2 月 1 日が 50 年になったわけでございます。当時人口が 31 万人だったんですが、

今は48万5千人。1.5倍くらいになりまして、その中で倉敷は人口も増えているんですけど、岡山県内を見ますと、倉敷が50万、岡山が70万、岡山県内の人口が今190万人ちょっとくらい。ほとんどがこの二つなんですけれど、その中で、倉敷市以外のところのこの高梁川流域を見ると、例えば新見さんでも高梁さんでも井原さんとか矢掛さんでも、皆さん人口が減っているわけです。それで、倉敷だけ人口が増えればいいというわけではなくて、もちろんそれぞれのところに皆さんの親戚もいらっしゃるし、また倉敷の経済活動が成り立っているのはそれぞれの地域の方とも取引をされているというのもありますし、なにせよ、この高梁川流域の一番の下流に位置する我々としては、大原総一郎さんが今から60数年前に高梁川流域連盟というのをつくられまして、我々人間の体のほとんど70%くらいは水でできているわけですし、その水というのは高梁川の水なわけです。で、高梁市や新見の方はいつも「高梁川の水を下流にきれいに流さんといかんからいろいろ気を遣ってます」と言われますので、流域で一緒に組んでやりましょうということで、施策をいろいろやっているんです。その中で一つ、お互いの図書館を使えますというのを今から2年ほど前に始めました。ですので、例えば高梁から倉敷に通勤されている方は、こっちで登録して、こっちで借りて、高梁の図書館で返すこともできます。最近でいえば高梁の図書館が新しくなっていますので、向こうに行かれる倉敷市民も増えているように聞きますけど。ということですので前よりちょっと増えているみたいなんです、使っていただく方が。ですので、換気なんかも注意して環境整備をしっかりとやっていきたいと思えます。ありがとうございました。

《参加者Bさん》

大内のBと申します。伊東市長、10年足らずですけども、こんなに明るくこんなに活力ある倉敷に変わるのには、市長の素晴らしい力だと私は思います。何はともあれ、今は未来へ向けて地域力というのを。さっき市長言われましたけれども、やはり駅の高架です。これが倉敷市だけではできないというのはわかってますけれど、どうにかみんなの力で倉敷の高架を早めに実現していただけたらいいなと思っております。それと市長、ケネディさんにジーンズのお土産を。次のアメリカ大統領、ケネディさんが立候補みたいですね。そうしたらケネディ大統領と市長、大統領と友だちなんてすごいなあと考えています。そんな素晴らしい市長が倉敷に今いるんですから。多分中央へ引っ張られるんじゃないかと思えますけど、絶対行かないでください。ずうっとこちらで頑張っていたきたいと思えます。本当に高架第一、それを私たちは希望しております。それと、小さなことですけども、ごみの回収ですが、本当に袋の中を見ると資源ごみ一杯入っています。どうにかありませんでしょうか。それが私の質問とお願いです。

《市長》

高架のこととケネディさんのこととごみのことですね。(笑) まず高架のことは最初も申し上げましたけど、倉敷市としては何としてもやってもらわないといけないと思っています。倉敷駅の周りの最近のことと言えば、駅の東のところに駅前東土地区画整理事業が3月に出来上がりまして、実は駐車場もできたんです。カモ井パーキングとか、駅の西側の駐車場じゃない方の天満屋の東側の方ですね。そこに市営の駐車場で150台くらい、結構大きいのができました。便利です。是非使ってみて、知らない方に教えていただけ

ればと思います。さて、駅北側のみらい公園の西の第二土地区画整理事業、今皆さんにだんだんご理解をいただいております、実は前よりも進むようになってきております。岡山県は倉敷市の区画整理の状況がどうなんですかと言いますし、もう一つは予算のことで、とにかく費用対効果がなんとかと結構言われまして、非常に困っているんですけど、とにかく市としては、岡山県の事業なので、もちろん国はお金を出すとされています。倉敷市ももちろん出します。県はもう分割払いでもなんでもいいから、出してくれれば。本当に50万都市のメインの駅のところが、今の倉敷駅の感じのところって、なかなか全国でもほとんどないですので、なんとしてもやってもらわないといけないので。市としましては、できるコスト削減策をいろいろ相談して、とにかく前に進むようにという思いしておりますし、これからも頑張りますので、ご支援のほどお願いできればと思っております。

二つ目がケネディさんのことです。ケネディさん実は同じハーバード大学で、ケネディさんが先輩なんですが、アメリカ大使として来られまして、私が大学の後輩だということを知られて招待状をくださることが結構ありまして、大使館での色々な会の時に呼んでくださったりということが出て来ました。私も倉敷に来てもらいたいということをお願いしたんですけど、何も無いのにアメリカ大使が来るのはなかなか大変なことで、何も無いのに来られないですけど、サミットをやることになったんで、「サミットの時に来てください」と言ったら、大手を振って来れるからと来てくれて。来てみたら、すごかったです、車が。アメリカ大使の車が全く違うんです。防弾のものすごい分厚い扉で、ものすごく重いんですよ。窓は防弾ガラス。それから鋼鉄の扉も撃ち込まれても大丈夫なようになっていて、非常に厳戒態勢だったんです。西中学校にも来てくださりまして、生徒たちにも手を振ってくれて、老松小学校で初めてけん玉をされまして、最初うまく入らなかったんですが、何回も何回も私と一緒にやりまして、10回目くらいにうまくスポッと入りまして、大変喜んで帰られました。ケネディさんもう1期大使をされるはずだったんです、オバマさんが大統領だったら。トランプさんがなられましたんで、自分が任命していない大使についてはすぐ辞めてくださいと、全世界の大使に御触れを出されまして、ケネディさんも帰らないといけないことになりました。倉敷に来てくれた時はケネディさん、「また倉敷に来ます」と。「その時に市長が着てるようなジーンズのスーツを自分も作りたいんで、連れて行ってください」と言われていたんです。そうしましたら、急に帰ることになりましたので、新聞にも書いてあったと思うんですが、私が思い切ってポケットマネーで、自分と同じ分をプレゼントいたしましたところ、大変喜ばれまして、「本国で着てます」とこの前手紙が来まして、「また会った時にはこれを着て、お揃いで会いましょう」と言われました。大統領になって帰ってきてくれたら、エアフォースワンが（笑）岡山空港に止まることになるんじゃないかと思っております。

最後にごみの分。大変いいのをお願いいたしました。ごみのことにつきまして、今日環境委員をしてくださっている方もいらっしゃると思うんですけど、倉敷市はご存じのように家庭ごみは今無料でございます。ところが、倉敷市の周りほぼ全部有料なんですね。岡山市、45リットルの袋1枚50円。総社市は23円。浅口市は12円。井原市も45円。新見市が50円。美作市が30円。赤磐市が45円。笠岡市は一定の枚数はありますが、それを超えると1枚100円になるそうです。ごみがどんどん増えてきたら、有料の検討をせざるを得ないと思っているんですけど、皆さんのご協力でごみがちょっとでも減っていくような、最悪でも平行で、それに関するお金がかからなくなったら、例えば福

祉とかに、もっとお金を回せます。ですので、その時までには私は無料でいきたいと思っているんですけど、ゴミが増えてきたら有料化の検討をしないといけない。さきほどBさんが言われましたように、家庭ごみのうち20%ぐらいが紙なんです。雑紙です。新聞紙とか、例えばティッシュペーパーの箱があります。使い終わった後に、私は分解して中の透明の分を取って、資源ごみにしますけれど、トイレットペーパーの芯の紙とか、コーヒーに入れた時の砂糖の紙とか、それが全体の20%くらいあるんですよ。それが減ったらそれだけでもかなり減ります。それともう一つ大きいのが、生ごみでございまして。これが100%のうちの、実は半分を占めておりまして、その半分のうちの90%近くが水分な訳です。ですので、家でコンポストをしていただいている方は大変ごみの減量化にご協力いただいているわけですが、少しでもごみを減らすために、まずは紙の分をよけて資源ごみの方に出していただくと。それから生ごみをできればなんとか、コンポストは補助金もございまして、畑とかあるところはそういうのも導入していただきたいし、とにかく水を切っていただくことによって、この一絞りがごみの有料化を遠ざけると私は考えておりますので、是非そういうところも、市もしっかりPRいたしますけれど、お願いできればと思っております。ありがとうございました。

《参加者Cさん》

西中学校の後援会のCと申します。昨年までの老松小学校の新築事業につきましては、大変な児童へのご配慮等をいただき進めていただき、本当にありがとうございました。そしてこのたび80年の歴史を刻む西中学校の木造校舎の大規模改修、いよいよ取り掛かっていたということで大変うれしく思っております。一点、憂慮といいますか、学校の先生方と悩んでおりますのが、グラウンドが半分くらいになってしまうために部活動、特にソフトボール部、陸上部、野球部、この3つがグラウンドをほぼ使えないだろうということで、四十瀬の陸上競技場、野球場を借りる算段を取っておりますが、お金がかかります。特に野球場はお金だけではなく、予約の抽選に先生が2カ月前に並んで一生懸命に取っているような状況でございまして。老松小学校の時も一番狭いときは、確か50メートル走のレーンが4つぐらいしかとれないぐらい狭くなっている時期がありました。どちらもちょうどうちの娘がそこにかかっておりました。小学校の時は、休憩時間、業間、昼休みに何やってるのと言ったら、「教室で友だちとお話ししているから大丈夫」と。大丈夫じゃない。成長期の子どもたちにとって、やっぱり体力をつけていくこと、何か目標を持って取り組んでいくということ、大変大切だと思っております。常日頃より仲間と話し合っておりますのは、“子どもたちが前向きに生き生きと育つまち”というのは、“大人にとってもとてもいいまち”なんじゃないかなと思っております。どうかいろんな工夫をしていただけたらと思っております。よろしく願いいたします。

《市長》

どうもありがとうございました。Cさんにおかれましては、小学校、中学校とPTA関係、大変お世話になり、ありがとうございました。これから木造校舎の大規模改修ということで、具体的なことを現在いろいろと調整しているところだと思います。その中で部活動のことについて私も詳しくはまだ聞いてないんですけど、四十瀬の運動公園とか陸上競技場あたりのことが、抽選しないと全然使えないんじゃないかなと思いますので、よく学校

教育部の方と、スポーツの管理の方と相談してもらうように、また私の方から言うておくようにしたいと思っております。私も改修をすることについて、文科省の補助金が付かなかつたら、いつできるかどうかと、ちょっと悩んでいるんだということを文科省に言いましたら、「すぐ付けますから必ずやってください」と言われたんです。文科省としても今回のサミットに当たっての地元や学校の取り組みを世界の方が評価されているのを知っておりますので、そういう伝統が引き継がれていくように、これからも地域の皆さんにサポートしていただけるように頑張っていきたいと思っております。

《参加者Dさん》

今までの方のように、伊東さんをほめるようなことができないんですが、浜町のDです。私には1歳の孫がおります。テーマは保育園の増設と待機児童の解消ということで、要望は、これまで倉敷市にはいろんな保育園に関する市民提案がされていますが、市の回答は既存保育園の増設に加え、平成25年及び26年度には保育園を計5園新設することにより増員を図ったと、また公立幼稚園での3歳児保育及び預かり保育の拡大や、平成27年度からは3歳未満児を対象とした、小規模保育事業や事業所内保育事業を開始しております。保護者の方が育児休業を取得した場合、兄弟の継続入所にかかる取扱いにつきましては、平成14年2月の厚生労働省通知に基づいて判断しますと。それからですね、この通知の中で小学校入学を控えている5歳児については継続入所を認めており、4歳児以下については地域の保育の実情を踏まえて判断する。このため倉敷市では5歳児、4歳児についても継続入所を認めております。それで、今年度からは3歳児についても継続を認めていると。で、うちの子はまだ1歳なので、もうじき子どもが産まれるんですが育児休業を取ると保育園には行けないと。これを是非解消していただきたい。これらの回答は平成14年の2月から厚生労働省の通知でやっているということは、もう15年も経っているんです。もう様々な問題が今まで発生しているはずなんですよ。これが未だに解消できていないということで、非常に問題だと思います。これは保育・幼稚園課が回答しているわけですが、一部の課が回答できる問題ではなくて、これは行政の長である市長の責任だと私は思っています。教育サミットや高梁川に橋を架けることも重要ですが、保育の問題は少子化対策のためにも非常に重要です。安倍首相も以前2015年ごろに「夢を紡ぐ子育て支援。2020年代半ばには希望出生率1.8の実現」と言っておられました。その頃は1.4だったらしいですけど、産みたいのに何らかの事情で産めない方の事情を取り除くことで1.8になるようにするようなことを言っておられました。だから市長ももう少し力を入れてください。

《市長》

どうもありがとうございました。Dさんから待機児童の事が出まして、私も最初にその話をしないとイケないと思っていたんですが、保育園の待機児童の事につきましては、私が市長に就任してから自分なりに非常に力を入れておるつもりでございます。というのが、子育て支援について、もちろん保育園だけではございません。妊娠出産期から、その前の不妊治療についてもそうですし、妊娠、出産、保育園、幼稚園、それから小学校に入ったら学童保育のことなどいろいろな段階があると思っておりますが、私が市長に就任しました平成20年には、保育園は9,900人くらいの定員だったんですが、今11,500

人くらいまで、1,500人以上定員を増やしました。それでも今まだ待機児童がいるんですが。(Dさん:百何十人ですかね) そうなんです。今日お昼に岡山市さんが発表されていましたが、岡山市は待機が1,500人くらいですね、来年までに解消しないといけないと発表されていましたが、まあ別に岡山市と比べて少なければ良いというわけではないんですが、倉敷市ではこれまでの間にも計画的にやってきております。ただまだゼロにはなっていないというのはDさんの言われる通りだと思いますし、育休退園の方もいっぺんにはちょっとまだできないものですので、入れる方の年数を下げていこうと思っております。一方で保育園の方も作らないと待っている方がいらっしやいます。両方大事だと思っておりますので、解消の方向に向けて頑張っております。

《参加者Dさん》

私は15年も経ってまだできないのかという事を言いたいんです。厚労省が5歳以上はいいけど、4歳以下はダメですよというのは・・・、(市長:それは厚労省がずっと言ってきた事なんです) 厚労省が言っているけど、市でやれば良いじゃないですか。

《市長》

なかなかそうもできないですので、厚労省がこの何年間の間に最近それを緩和してもいいと、予算をつけることを可能にしてきたんです。(Dさん:それは国からの予算ということですか?) そうです。やはり保育園を1つ作るのも何億円というお金がかかりますので、国からの補助金というのは必要だと思っております。それを活用しながらやらなければいけないと思っております。なるべくこれからも頑張ります。

《参加者Eさん》

私は中洲学区のEです。広報を見ますと、10ページ相当福祉に関する問題を取り上げていただいて、いろいろPRをしていただいております。本当に市の方も気を配っていただいて、また推進を一生懸命されていることも理解しております。地域としましては町内会長をはじめ地区社協の皆さんにも声を掛けまして、実は昨年13町内の中ではありましたが10カ所にサロンを新しく設立できました。地域の高齢者の皆さんが集う場所が10カ所できて、非常に私たちもうれしく思っています。地域の町内会長さんが一生懸命になってやってくれたということで非常に感謝をしている状況です。振り返って、高齢者の側から見ますと、高齢者はだんだんと増えていくというか、まあこの倉敷市も学区の方も、高齢化率が30%に迫る勢いで、これが高齢者が65歳から75歳になるならまた高齢化率も変わってくるんでしょうけれども。率は下がるんですが実際65歳以上の方を高齢者と見た場合30%近い高齢化が進んでいるわけです。これについては2025年問題もありますので、高齢者がますます支援を受けにくくなる事態が起きてきています。そうすると、住み慣れた地域で長く暮らしていくには、みんなが集う場所も作らないといけません。それは今後もずっと続けていく活動としてはいいんですが、その他に、元気に病院にもなるべくいかに健康寿命を延ばしながらやっていこうと思うと、地域の人と行政とが、何か、昔流行りましたが「便利屋さん」のような、仕事ができる組織というものがあれば、高齢者は非常に住みやすくなるのではないかと、私は思っております。自分の地域の小さな町内ですが、今10年くらい独居者のサロンをやっております。そうするとやはり困っ

た問題、心配な問題をどんどんテーマとして皆さんの方から出していきます、雑談の中で。その中で「助けてあげたいなあ」と思っても、自分1人ではどうにもならない。地域のひとと行政が何かそこにひとつのシステムを作ってあげればと思います。民間にお願いする方法もあるんですが、定価で取って行かれますので、高齢者はだんだん年金が細っていきますので、そういう不安があるんで、そういう事も含めて安心して生活していくことのできるような地域にしていくためには、何か町内の人の、いわゆるリタイアされた方の活用という事と、行政から、ある程度の行政負担と受益者負担とでそういう組織を作ってはどうかと、私は将来的に考えておるんですが。提案としては具体的にこうしてということでは無くて、少しそういう地域を生かした、高齢者が本当に安心して頼める小さな組織を作ってあげるといふ事が、町内ごとにですね、必要じゃあないかなとつくづく思っています。というのが、押し車を押しながらも病院に通っていた方が、今はもう押し車を押せないと、家から出るのも大変、というような状態になると誰かに頼まないといけなくなる。子どもも遠い。そうすると、近所の人にお世話をしてもらった方が良いのではないかと。そうなった時に気楽に頼める雰囲気が必要じゃないかなと思います。それが町内会であれば、町内会の人たちはやはり無報酬ではやりきれない部分があると思うんですね。町内の役員はするが、その高齢者の面倒を見るまでは、自分の生活費の負担をしながらリタイアした人でやるというのはちょっと大変だ、というような事が考えられるので、是非行政と組んだ小さな組織を、どこか特区を作ってでもやって、できれば水平展開をしていかれたらという提案をさせていただきたいと思います。

《市長》

ありがとうございました。今倉敷市は、65歳以上の方という定義ですれば、だんだん30%くらいに人口構成の中では近づいてきていると。まあ全国平均並みの割合かと思っています。倉敷市内でも地区によっては30%を超えているところもございまして、地域によっても違うわけですけど、当学区については、倉敷市の平均というふうに思っています。

さて今、ふれあいサロンのことですが、私も今日これを持ってきたんですが、この前これ（くらしき『通いの場』ガイドブック）を市が作って、全戸には配布できていないんですが、倉敷市内の通いの場として、いわゆるふれあいサロン、自分の地域の近くでどこに行ったら皆さんと交流ができるかという事を書いてあります。市内で調べましたところ、430か所くらいが皆さんいろんな立場で（サロン活動を）やってくださっています。その中でこれには280か所くらい載っていますので、せっかくなんで、皆さんこれを列ごとに回して見てください。健康福祉プラザとかいろんな所に置いて、皆さんに広めようとしています。子育て関係でも、こういう子育て応援マップというのを作っておりまして（子育て応援マップを広げて）、お住まいのところの近くに、例えばこういう子育てサロンがありますとか子育て広場がありますとかというのも作っております。こういったものも皆さんに活用していただきたいと思っております。

さて、今Eさんの言われました、いろいろなサロン活動などの中から課題も出てくるでしょうからということで、私にもわかにかうすれば良いというのが分からないんですが、ただ、このサロン活動をしてくださっている地域と、それからしてくださっていない地域では、地域の中の例えば、要介護になられる方の数とか割合が、やはりサロン活動の中で

いろいろ声掛けをしたり、お話をしたりといった所で、ずいぶん減っているというふうにかがっています。で、倉敷市としては平成29年度から、そのサロン活動にもっと力を入れたいと思ひまして、少し市からの助成のシステムも改良しましたりしておりますので、皆さんも是非、まずはその活動も見ていただいたりしたらいいなと思うんですが。うちの職員と話をする中で言っておりますのは、サロンには、結構女性の方が気軽に参加をされるわけですけど、定年をされました男性の皆さんがなかなか行きにくいというのがあります。ですので、男性が行きやすいような、例えば将棋をしましよとか、この前も将棋の名人戦を誘致しましたが、囲碁とか将棋とかも取り入れたりとかして、とにかく定年をされた後も家から出ていرونなところに行ってみるというのが、健康を維持する非常に大きなことだと思っておりますので、そういうところもやっていきたいと思っております。そこからいろいろな課題が見えてくるんじゃないかと思ひますので、これも地域包括ケアという仕組み、高齢者福祉の仕組みが出来てきましたので、そういう中でいرونなやり取りをして課題をどうやって解決していくかということ、まだ模索中なんですけれど、皆さんがこういう活動をしてくださっている中で導かれていく方向も見えて思ひますので、とにかく頑張りたと思ひます。ありがとうございます。ちょっと答えにならなくて申し訳ありません。

《参加者Fさん》

私は八王寺のFと申します。先ほどEさんの方から高齢者の事が出ましたので、私は子どもの事を、ちょっと懸念を持っておりますことに触れてみたいと思ひます。まず2年ほど前ですかね、倉敷で日本女性会議がございましたね。これは全国組織ですが2千人以上の方がおいでになられて、3日間でしたかね、一生懸命いرونな、男女共同参画社会の実現を目指してというテーマでございます。先ほどから子どもさんの問題がございしますが、男女共同参画社会の事を解決していくことが、やはり少子化を解決していくことに繋がると思ひます。これはまた市長さんが積極的に呼び掛けて誘致をされたということで、私は大変うれしく思っております。それからつい最近、5月でしたかね、川崎医療福祉大学で日本保育学会がございました。私も出席しましたが、やはり教育ですね、保育というのが先ほどありましたが、非常にこの町の地域力、活性化については、将来を担う子どもの育ちというのは非常に重要であると思っております。市長さんは「子育てするなら倉敷で」ということで非常に頑張ってくださいしていますが、合計特殊出生率も1.64って書いてありますが、伸びておりますよね。それもやはり市長さんが一生懸命頑張ってくださいしているおかげだと思ひます。とにかく今までのお話がございましたように、市長さんは倉敷、倉敷から日本全国へ、そして倉敷から世界へということで、川崎医療福祉大学の保育学会の時にも、大ホールで、教育について大原謙一郎さんたちと共にシンポジストとして教育に対する熱い思いを語られました。私は大変誇りに思っております、ありがたく思っております。

ひとつだけお願いがございしますが、それはトイレの事でございします。高齢者が増えているということで和式を洋式に替えていただくということに、市長さん以前から一生懸命頑張ってくださいしているという事はうかがっております。しかし、これだけ超高齢化社会になりますと、なかなか追いつかないと思ひますが、年次的にやっていただくようお願いいたします。その件に関しまして、東八王寺の公園のトイレが和式だったんです。非常に汚さ

れておりました。それで何とかならないかと公園緑地課にお伺いしましたら、もう、すぐ来てくださいました。そして現場を見ていただいて、これは老朽化しているので緊急に応急処置をしましょうということで、あくる日に見に来てくださって、そして3日もかからないうちに直してくださって、汚れもだいぶ無くなりまして、今のところ解消しております。そういったことで、役所の方々も頑張ってくださいているなど、緊急に来てくださったことが非常にありがたかったです。で、これからは、どうぞ洋式化に向けてお願いしたいと思います。以上でございます。

《市長》

ありがとうございます。保育の全国的なPRということもあると思いますし、それから男女共同参画の取り組みも、私自身が女性という事もありまして、それからちょうど倉敷市の船穂真備地区ですけれど、地域から女性担当大臣、働き方改革の加藤大臣も出られておりますし、厚労省の保育関係の方には橋本岳さんも行かれておりますので、地域の状況を中央の方にも言いついて、倉敷の合計特殊出生率が上がっているという所は、さっきDさんからまだまだ進んでいないと言われましたけど、全国の中ではようやくとると言われておいて、そういうことなども言って、保育園とか学童保育などを充実したら働く女性も増えてきたと、そのあたりを全国の方にも言って、それで国もそのあたりに力を入れないといけないということ、最近結構「保育、子育て、子育て」と言ってくださっているの、取り入れてくださっているのかなと思っています。

それで、トイレの事でございますけれど、非常に身近で重要な問題でございます。これまでの変遷は、平成27年度くらいまでは、とにかく学校の耐震化をしないと、南海トラフの地震のこともありますし、みなさんの避難場所ということもありますので、それをなんとか今全部100%にしました。その後、公民館の耐震化の改修をしたりする中で、合わせてトイレの洋式化を、もちろん和式も残さないといけないと思うんですけど、洋式も入れていくとか、それから体育館の改修をする時に、体育館はやっぱり皆さんが使われますので、体育館は洋式を必ず入れるとかそういう方向でやっています。学校の改修がひと段落しましたので、今後公共施設の改修をする中で洋式トイレの事にはしっかり注意してやっていきたいと思っています。

《参加者Gさん》

安江のGと申します。さきほどサロンの話が出たので私もお願いを含めて話させていただきます。今住み慣れた地域で元気に長生きするのに百歳体操というのを中洲のサロン活動の中でしております。それで、高齢者支援センターの方が3回来て指導して下さるんですが、支援センターの方がおっしゃるのに、倉敷市の委託を受けて私たちは活動していますと言われているんです。それで、その百歳体操の指導3回が済んだ後にその意味とそれからその説明の元気になるDVDとそれから実際に百歳体操するDVDと見せていただくんです。その3回が終わったらCDかDVDかどっちか一つだけあげますと言われているんです。DVDはテレビやDVDデッキのあるところはずぐ使えるんですが、私の住んでいるところの公民館はテレビもDVDデッキもCDカセットも何もないんです。ということは私がパソコンとプロジェクターを持って行って映す予定をしているんです。でもCDをくださると連合町内会から補助があるのでCDデッキが買えて、CDならどなたでも

操作できると思うので、私もし自分の都合や病気で欠席した時にほかの方がCDをかけてそして次に何の運動をするか書いた紙をくださるそうなので、それでうまくやっているサロンの方もおられます。だからCDとDVDと両方欲しいんです。そうでないとパソコンとプロジェクターを毎回私が持って行かないとできない状況になるんです。CDがただけだと欠席しても音と書いた紙で（体操が）できると思うので、今日のお願いは欲なようですが両方いただけたらありがたいなと思うし、今どちらかしか持っておられないと思うので、CDの方はDVDをDVDの方はCDを受け取られると無駄にはならないと思うし大変ありがたいなと思います。そんなにお金のかかるもんじゃないと思うんです。私の今の悩みで申し上げました。よろしくをお願いします。

《市長》

Gさんの百歳体操にける熱い思いがよくわかりました。ありがとうございます。大変具体的な悩みでよくわかりました。それで、それぞれの開催する場所にもよって、Gさんのところは多分両方あった方が便利だということだと思いますし、ほかのところによっては例えばDVDだけあれば大丈夫なところもあるかもしれませんので、支援センターの方に、市の方から相談してみたいと思います。

百歳体操をやっていたら皆さんが大変元気になりますので、大変ありがたいことだと思っております。ありがとうございます。

《参加者Hさん》

私の町内も百歳体操を始めております。5月からでまだ始めたばかりですが。老松町のHと言います。

高齢者がこれからどんどん増えていく世の中で、一番気になることはやはり災害だと思うんです。災害の時にいかに避難できるか。それによって命が左右されると思うんです。倉敷は高梁川という大きな川があります。南海地震というのがこれから起こると地震学者が言われていますよね。それでも南海地震が起こった場合には、高梁川を津波が上がってくると思うんです。その時に、私子どもの時に中学生の頃なんですけど、新見か高梁の方に大雨が降った時に高梁川がもう手が届くところぐらいまで水が来とったんです。味噌汁みたいな水が。それが恐らく地震の時には津波が遡って来る。その倉敷の歴史といえは西側と東側に高梁川あってそれを一つにまとめて今の高梁川の堤防を築いたんですけど、あそこが直角に曲がってるんですよ。酒津のところが。あそこへぶつかったら必ず溢れると思うんですよ。水が市内に流れ込む。で、ハザードマップでは市内が1mほど浸かるという予測らしいんですけど。私は前に大阪に住んでたんですよ。大阪の西淀川区で、大阪府と兵庫県の境の神崎川があるんです。それが二手に分かれてその時に防潮堤を閉めるんですよ。2号線を。鉄の扉で。もちろん通行止めですけど。その防潮堤がなかったら完全に水害が起こるとるわけですよ。そういうことを、防潮堤を築いてもらいたいんですよ。あそこの高梁川の曲がる所に土手の延長として。伯備線の嵩上げ工事も要ると思います。あそこをなんとかすれば市の水害はかなり防げると思います。

それからJRの立体交差のことで、その後を自転車道にしてもらいたいんですよ。というのが橋、上に鉄道を通すと柱が邪魔になると思うんです。だから道路としては狭すぎると思うんですよ。自転車道にしてもらいたい。岡山ー倉敷を自転車道にするぐらいの、将来

的にはね。境港から愛媛県ですか、しまなみを通る自転車道を作ると新聞に出てたんですけど。ヨーロッパも自転車道が非常に都会には作られてるんですよ。交通渋滞がなくなるから。健康のためにもいいから。そういうことで。

それからもう一つ。駐車場です。県外の観光客が来て停めるところがないんですよ。美観地区に行こうと思っても市営駐車場が満車で並んで待たにやいけん。私も山行く時に上高地行くんですけどあそこは駐車場の大きなんがあります。そこでシャトルバスを出してもらいたいんです。駐車場も料金を安くしてもらおうようお願いします。郊外に新しい大きいのを作ってもらえば役に立つと思います。

《市長》

今高梁川のことと自転車のことと車のことについてお話をいただきました。

それで、この高梁川のことなんですけれど（地図を指しながら）高梁川がこう来ましてこうなっております、このこう曲がっているところがちょっと見えにくいかもしれませんが、酒津のあたりがここでございます。Hさんが言われましたように、ここに対する圧力がかかって高梁川の堤防が切れた場合にどうなるかということで、1mぐらい浸水するということが洪水ハザードマップでは出ております。それはもちろん100%全くないかというそれはもう計算上はなんとも言えませんけれど、今の高梁川の酒津の堤防は非常に丈夫でございます。まずそれが第一段なんですけれど。しかしながらHさんも言われますようにほかのところよりも酒津のところには川の圧力がかかるというのは構造上そうなっておりますので、実はこれも10年ほど前から強力に国土交通省の方に言いまして、こっちに堤防の高いのを造るんじゃないんですけれど、ここに柳井原の貯水池がございます。そこを切って、こっちの山を切りまして上手から来る水を柳井原の方を通してもっと今よりも何kmか下手の方に水を流すという高梁川の大きな改修工事を国の方に認めてもらったところがございます。今まだ工事は始まっておりませんが、その柳井原の方に水を流す中のところの耕作の方々の調整が進んでおりまして、国土交通省としてもこのことについては水を二手に分かれて小田川から来る水はこちらの方に、そして高梁川の水はより勢力を少なくして酒津の方に来るよというので、この事業を始めていただいております。これが出来るのが今から何十年後とかではないです。今平成29年度なんですけれど、だいたいこれから10年ぐらいの間にこの川をこちらの方の川と2つに分けるといふことに今なるように事業が進み始めておりますので、3年ぐらいでできるのかということにはならないんですけど、そういう方向になっております。

《参加者Hさん》

増水はそれでいいと思うんですよ。下から来る津波はちょっと防げないんじゃないかと・・・。

《市長》

津波はこちらの方から上がって来て洪水になるようには津波ハザードマップではないように国の計算ではなっております。安心でございます。南海トラフの地震でも、この地域には山からの土砂災害と下手からの津波は来ないようになっておりますので、唯一心配なのがこの川の水のことだけでございますので、その心配を取り除くようにこの工事を

しているということです。津波は大丈夫です。安心してください。

それから自転車と駐車場でございます。倉敷の高架が出来ましたら、その高架下というのは梁っていうんですか、あれがきますので、道路が下を通るわけにいかないんですけどいろんな利用形態が出て来ます。ちょっと自転車道というのは考えてなかったんですけど、例えば、水島臨海鉄道が今高架になっておりますけれど、ひとつには臨海鉄道を倉敷駅のあたりを高架ではなくて、今非常に全国的に進んでいるLRTという地面を通るのを導入することも検討の対象にはなっています。そうすればより道が使いやすくなるので、そういうのも検討していきたいと思っております。

それから駐車場についてはさっきちょっと言いましたけれど、駅の東のところの一つ大きなのが出来ました。それから駅の西の駐車場、西ビルのもうちょっと西のところに駐車場があります。それから今、観光シーズンの日曜・祝日を中心に倉敷市役所の屋内駐車場150台分を開放しましてそこに観光客の方に停めていただいて、そこから美観地区までのシャトルバスが出ております。それでもまだすぐに停められていない方もいらっしゃるんで、今後も様子を見て検討しないといけないと思っておりますが、市としましてはなるべく、あんまり市の中心部に車が入ってくるよりも、ある程度の美観地区からちょっと離れたところに車を置いていただいてシャトルバスとかで行ってもらえるような感じにできればと思っております。

最後に酒津の堤防が切れることはないですけど、一応倉敷市が念のためにということで、イオンさんと防災の協定を結んでおります。協定を結んでいるので、さっき1m浸水すると言いましたけど、もしも堤防が切れたらそうなりますが、そんなことはないですけど、イオンの駐車場とかにも地域の皆さんは避難をしていただくことができます。それから倉敷運動公園のところは標高が少し高いんです。この洪水ハザードマップ（洪水ハザードマップを掲げて）、これを去年お配りしておりますので。この倉敷運動公園のあたりは標高が高いです。そしてイオンのところも駐車場のところが標高が高いですし、色がいろいろついておりますけど、これは国土交通省が全国的に同じように、本当に酒津の堤防が切れることはありませんけど、切れた場合に倉敷市がどうなるかということで算定を弾いた図です。ですので、こうはなりませんけど、なんでこれを作ったかということ国土交通省はこれをするによってこの酒津の堤防にかかる圧力を下げないといけませんよ。そのためにさっき言いました高梁川の付け替えをしないといけないんですということ国会議員とかに説明しないといけないんですよ。それでこの地図を作られまして、念のために、かつそれぞれのご自身のところが標高大体何mぐらいにあるか示してありますので、皆さんの近くの避難場所のところを確認していただければと思っております。このへんの近くで言えばこのイオンのところが一番大きい、それから倉敷運動公園のところが大きいと思いますし、もちろん家に2階があるところは遠くまで行かなくても2階に避難をしていただくということも、時間的に難しい場合は、2階へ。一番は大雨の時でございます。そういう時は、特に夜中の場合には2階への避難は有効かなと思っております。最後に防災の関係でいい質問をしていただきまして大変ありがとうございました。今後もしっかりやりますのでよろしく願います。

それではちょっと時間が過ぎまして申し訳ありませんでしたが、第70回目市民ふれあいトーク、以上とさせていただきます。皆さんから貴重な意見をいただきまして、どうもありがとうございました。